

矢崎科学技術振興記念財団はこのほど、2017年度の「研究助成金」受領者15人、「国際交流援助」受領者19人、「特定研究助成金」受領者1人、「矢崎学術賞」受賞者2人を決定したと発表した。贈呈式は、今月8日に東京プリンスホテル（東京都港区）で行われた。

今年度については、「一般研究助成」で78件の応募があり、審査の結果、吉川浩史・関西学院大学理工学部准教授の「金属有機構造体を利用したエネルギー材料の開発」をはじめ、木口学・東京工業大学理学院教授（先端分光法の開発および能動的界面制御に基づく

次世代単分子素子の開発）、竹中充・東京大学大学院工学系研究科電気分学専攻准教授（ゲルマニウムを用いた高効率中赤外光変調器の開発）、福村知昭・東北大学材料科学高等研究所教授（二次元ビ

5件の助成を決めた。また、「奨励研究助成」は、53件の応募の中から、小林洋介・室蘭工業大学大学院工学研究科（情報系領域）助教による「よく聴こえる」拡声システムのための音声合成システム

性転換型炭素アニオン発生法を利用した多置換アリル化合物のモジユール合成法の開発）、櫻井庸明・京都大学工学研究科分子工学専攻助教（有機エレクトロニクス素材に用いる機能性超微細ナノ材料

矢崎科学技術振興記念財団

17年度研究助成決定

贈呈式開く

スマス正方格子をもつ層状酸化物超伝導体の開拓）、藤澤剛・北海道大学情報科学研究科准教授（螺旋ツイストフオートニック結晶ファイバの光学的物性解明とその光空間状態制御への応用）に対し、合わせて

の構築」ほか、岡崎雄馬・産業技術総合研究所物理計測標準研究部門研究員（単一電子精度での有限周波数電流計測の実現）、近藤祥・東北大学大学院理学研究科附属巨大分子解析研究センター助教（極

エネメモリデバイス材料の開発）、三輪真嗣・大阪大学大学院基礎工学研究科（界面磁性の電界変調に関する研究）、吉松公平・東京工業大学物質理工学院応用化学系助教（ Ti_2O_3 ナノ薄膜を用いた酸化物トランジスタ展開）、轟直人・東北大学環境科学研究所先端環境創成学専攻助教（鉄鋼材料の水電解触媒利用に向けたアークプラズマ蒸着法による表面改質技術開発）、馬騰・東北大学材料科学高等研究所助教（バックコネクタクト型ペロブスカイト太陽電池の開発）に対して、合計10件の助成を行うとした。

矢崎科学技術振興記念財団は、1983年以来、科学技術の発展を目的として研究助成事業を実施し、17年度も「新材料」「エネルギー」「情報」の3分野を対象領域とし、研究の独創性に重点を置いて助成対象の研究を選考。「一般研究助成（助成金200万円）」と、「環境科学研究所先端環境創成学専攻助教（鉄鋼材料の水電解触媒利用に向けたアークプラズマ蒸着法による表面改質技術開発）、馬騰・東北大学材料科学高等研究所助教（バックコネクタクト型ペロブスカイト太陽電池の開発）」（特定研究助成（同1000万円））を選定。また、国際的な学会で論文や共同研究発表をする際の渡航費を「国際交流援助」事業で支援している。